

坂本館

所在地：大字館後字新田地内

主な時代：縄文時代、平安時代、中世

調査期間：平成28年6月22日～12月2日

調査面積：1,273㎡

調査原因：市道国吉館後線改築

説明：

坂本館は、弘前市街地の南西部、蔵助沢川左岸の河岸段丘上、標高約82～98mに位置しています。市道整備に伴い、平成28年度から発掘調査を実施しています。平成29年度も発掘調査を実施し、平成30年度に発掘調査報告書を刊行する予定です。

調査の結果、縄文時代の竪穴建物跡3軒・土坑47基・土器埋設遺構2基・捨て場1か所、平安時代の竪穴建物跡1軒、平安以降と考えられる掘立柱建物跡1棟・溝跡2条・畝状遺構(畑の痕)2面、柱穴跡等が検出されました。縄文時代の土坑の中には、深さ1～1.5m、開口部直径1m、底面直径1.5～2mのフラスコ状土坑が10基検出されました。主に堅果類等の食べ物を貯蔵する穴(貯蔵穴)として使われていたようです。また、墓として利用される例もありますが、今回の調査では、そのような痕跡は見つかりませんでした。検出されたフラスコ状土坑は、出土土器等から、縄文時代前期後葉頃(今から約5500年前、円筒下層d1～d2式頃)と考えられます。



高照神社馬場跡

所在地：大字高岡字獅子沢

主な時代：江戸時代

調査期間：平成28年5月23日～6月21日

調査面積：351㎡

調査原因：馬場跡の市史跡指定及び整備

説明：

高照神社馬場跡は、弘前市街地から西へ約9.5km、岩木山麓の南西部に位置しています。市の史跡指定及び整備のため、試掘調査を実施しました。当馬場は、文献によると文政13年(1830)に完成したとあります。「高照神社境内絵図」(弘前市立博物館蔵)によると、規模は東西80間(156m)、南北8間(15.6m)とあります。神馬を牽き歩かせる等の神事が行われたとされています。全国的にも馬場跡自体が残っているところは稀であり、当馬場跡は貴重です。



調査の結果、規模は絵図の通り、東西約156m、南北約15.6mを測ります。馬場の造成土中から陶磁器が1点出土しました。19世紀前半頃の肥前系染付碗であり、文献の通り、馬場はその頃に構築されたと考えられます。

【展示に関する問い合わせ先】

弘前市教育委員会 文化財課埋蔵文化財係(岩木庁舎3階)

〒036-1393 弘前市大字賀田一丁目1-1 TEL 0172-82-1642(直通) 内線 768・652